

## 新刊の森

## 『モチベーションエンジニアリング経営』



小笹芳央、勝呂 彰著  
東洋経済新報社  
1600円(税抜き)  
ISBN978-4-492-53241-6

## 『働く意味』が社員を動かす

2000年にリクルートから独立し、コンサルティング会社リンクアンドモチベーションを起業した著者らは、「金銭報酬」や「地位報酬」などの「ニンジン」を社員の目の前にぶら下げるだけの人事改革では不十分だと指摘する。今、経営者が注目すべきは「意味報酬」、つまり社員各々によって異なる精神的充足や周囲からの評判、自己成長の機会といった「働く意味」を効果的に与える施策であると説く。同社はそれを「モチベーションエンジニアリング」と名づけ、精神論にとどまることが多い「やる気」や「満足感」といったモチベーション(動機づけ)を、計画的に呼び起こし定着させる手法を示す。

社員にとっての「意味報酬」は、4つの魅力に大別できると言う。まずは組織が達成したい目的、つまり企業理念への魅力だ。次いで、個人が担う業務を通じて得られる達成感や新たな発見への魅力も欠かせないと言う。3つ目は価値観を共有できる仲間や尊敬できる上司など人材への魅力、最後に、その組織ならではのステータスや名誉、生き方を支援する仕組みといった「特別な権益」への魅力を挙げる。

これらの魅力を自社で再発見、あるいは創出する方法を、現状診断、緊急課題の解決、将来課題の解決といったステップに分けて解説する。

## 『富裕層はなぜ、YUCASEE(ゆかし)に入るのか』



高岡壮一郎著  
幻冬舎  
1600円(税抜き)  
ISBN978-4-344-99610-6

## 富裕層への情報提供サービス

「YUCASEE(ゆかし)」とは、限られた富裕層を対象としたプライベートクラブだ。著者が社長兼CEO(最高経営責任者)を務め、富裕層マーケティングや投資情報の提供、東京大学OBを会員とするSNS(ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス)などを展開するベンチャー企業が運営している。純金融資産を1億円以上保有することが入会の最低条件で、喜寿を迎えた病院院長から10億円を運用する学生個人投資家など、様々なお金持ちが会員登録をしていると著者は説明する。

本書では、同クラブに集う新たな富裕層群を「インテリッチ(インテリ+リッチ)」と名づけて特性を分析する。インテリッチとは、自らの能力と努力で財産を形成した富裕層であり、主に相続で富を得た「相続リッチ」と区別すべきだと言う。ベンチャー関係者やオーナー企業家、「土」のつく専門家、個人投資家に多く、資産の有効活用法に興味を抱く一方で、ボランティア活動など社会に貢献する場への参加にも前向きだと解説する。

新富裕層が同クラブの「絆」に期待するのは、日常生活では見えない金融資産の使い道や運用情報の交換と分析。海外の有名レストランのオーナー権や一般に公開されない豪華別荘購入権など、限定情報の価値について語る。

## 『老いはじめた中国』



藤村幸義著  
アスキー新書  
752円(税抜き)  
ISBN978-4-7561-5112-4

## 少子高齢化が成長の足かせに

新聞記者として北京特派員、北京支局長を務め、現在は拓殖大学で教授として中国の研究を続ける著者が、経済成長の陰に横たわる問題点を指摘する書。「中国もいつまでも『若さ』を保ち続けることはできない。間もなくバブルがはじけ、(老いに向かう)転換期がやってくるに違いない」と指摘し、その兆候を詳しく分析する。

まずは人口に占める高齢者数のバランスの悪さを指摘する。現在のペースで高齢化社会が進めば、半世紀以内に「総人口15億人のうち、65歳以上の高齢者数が6億人」という極めて深刻な状況に陥る可能性があると言う。高度成長を終えた時点で少子高齢化社会を迎えた日本とは異なり、社会保障などが未整備のままに訪れるであろう労働力の慢性的不足や消費財の売れ行き停滞といった事態に、果たして中国は耐え切れるのかと危惧する。また、原因の1つである「一人っ子政策」の現状や功罪などについても解説する。

さらに、深刻さを増す環境問題も成長を妨げるだろうと言う。巨大ダムの建設による長江の水質汚染、石炭の過剰採掘による都市部の地盤沈下、二酸化炭素の大量排出などに反対する周辺諸国の「中国環境脅威論」など、国家の「老い」を加速させる要因はそこかしこに存在していると解説する。